

**あなたの胃は大丈夫ですか
「胃がんハイリスク検診」
結果概要**

日本人の死因の1位はがんです。今や、生涯国民の2人に1人が、がんにかかります。大田原市の平成21年の死亡原因の第1位はがん2000名(27.8%)、部位別では1位「肺」40名、2位「胃がん」34名でした。がんは早期がんを早期に発見することがなにより必要です。

大田原市では平成23年度から胃がん検診の方法に新たに「胃がんハイリスク検診」を導入しました。この方法は国の指針で推奨される「がんを見つける検査」ではありません。一人一人の「胃の健康度」を調べて胃がんになる危険度の低い人を精密検査から除き、危険度の高い人は胃がんの有無を確認するために精密検査(内視鏡検査など)を受けていただく検査です。この検診の有用性は研究結果で示されています。

胃X線検査で造影剤のバリウムを飲めない方にとっても、血液検査で受けられる事から、胃の検査を受けやすい体制に整備し、受診者の増加を目的にスタートしました。

今回は「胃がんハイリスク検診」結果と今後の「胃がん検診」の進め方についてお知らせします。

詳しくは平成24年度大田原市民健康診査のご案内家庭保存版をご覧ください。

胃がんハイリスク検診とは？

あなたの胃が、胃がんになりやすい状態かどうかを血液で調べます。ペプシノゲン検査(PG検査)

胃の粘膜の状態、萎縮性胃炎のマーカー
ヘリコバクター・ピロリ抗体検査(Hp検査)

ピロリ菌に感染しているかいないか

対象者(5年間かけて、40歳以上の方に選択制で実施)

40、45、50、55、60、65、70、74歳(5歳刻み)

※対象にならない条件の方あり

● 利点
① 食事に関係なく血液で簡単に調べられるため、受診がしやすい。

ただし、胃がんを直接見つける検査ではないため、精密検査になつた方は病院を受診し、直接「胃がん」があるかないかを診てもらふ必要があります。

② A群の方は、レントゲンの被ばくを防ぐことができます。B群・C群・D群の方も精密検査で内視鏡を実施することで、レントゲンの被ばくを防ぐことができます。

③ 精密検査後に医師と相談しピロリ菌を除菌することで、胃がんの発症リスクを1/3に抑制できるため、将来胃がんになりにくくなります。

胃がんだけではなく、胃潰瘍などピロリ菌が原因とされる疾患にも

かかりにくくなります。 ※感染は幼少時期のため、一度除菌をすると再感染は少ないといわれています。

●平成23年度胃がん検診受診状況

《胃がんハイリスク検診を受診した方の今後の胃がん検診の受け方》

○A群の方

胃がんにかかる危険度は少ないため、5年後の検査でよいこととなりますが、市の胃がん検診(バリウム検査)を受診することは可能です。

年齢別胃検診受診状況

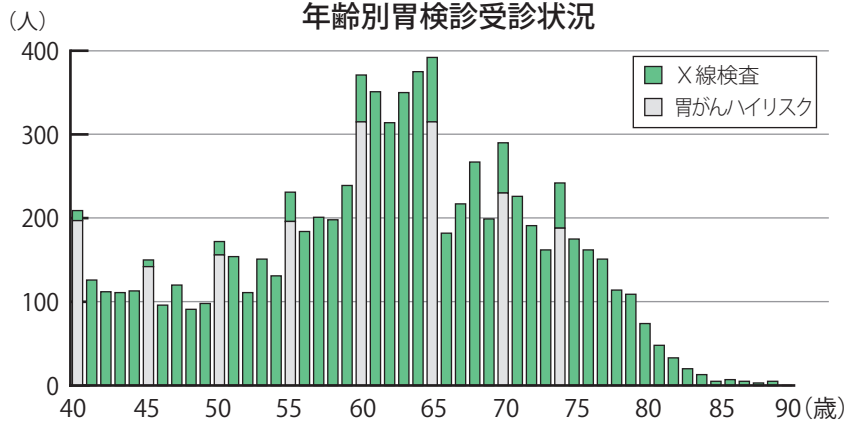


表1 受診者の変化(集団検診)

胃がん検診内容	平成23年	平成22年	比較
胃X線検査	6490人	7791人	-1301人
ハイリスク検査	1739人		+1739人
合計	8229人	7791人	+438人

表2 胃がんハイリスク検診の受診結果

受診結果	精密検査					
	異常なし	A群	B群	C群	D群	総数
判定区分						
人数(人)	928人	301人	445人	65人	1739人	
割合(%)	53.4%	17.3%	25.6%	3.7%	100%	
※がん(疑い含む)数(人) (2月10日現在)		1人	8人	2人	11人	

○B群・C群・D群の方

胃がんになる危険度があった方なので、今回精密検査を受けた主治医とよく相談し、医師の指示に従ってください。

精密検査を受診された医療機関での定期的な経過観察による胃がん検診が必要となります。

■問い合わせ

健康政策課成人健康係
TEL (23) 7601